

「内部河川・運河の活用とコミュニティ強化」プロジェクト

代表者 志村秀明【教授】（工学部建築学科）

構成員 中野恒明（システム理工学部環境システム学科）／
郷田修身、原田真宏、堀越英嗣（工学部建築学科）／
守田優、遠藤玲（工学部土木工学科）／清水郁郎、佐藤宏亮（工学部建築工学科）／
篠崎道彦、桑田仁（デザイン工学部デザイン工学科）

プロジェクトの概要

江東区・中央区・港区の河川や運河は、アメニティや景観の向上、都市環境改善、観光振興、災害時対応などに向けての再生と活用が求められている。また、これらの地域では、都心回帰に伴う人口の増加が続く一方で、日常時のふれあいや社会教育、緊急時の相互扶助などで重要な役割を果たす地域コミュニティは希薄化している。

これらの地域課題の解決に向けて、PBL型の演習の実施や地域志向科目の必修化を進める。特に、都心部においては、河川・運河の活用を、PBLの題材や、新旧住民を含む地域コミュニティの触媒とすることに特色がある。

都心部以外でも、中山間地域にあり過疎化と産業の衰退が著しい南会津町、高度経済成長期に整備した公共施設が更新期を迎えているさいたま市などでも、都心との交流や連携の対象としつつ、幅広いコミュニティ強化を目指していく。

COC活動の成果

■ 深川東京モダン館での設計演習の発表

建築学科「地域設計演習」「建築設計演習Ⅰ」「建築ゼミナール2」の作品展を2016年6月11日～19日まで開催し、学生発表会・公開講評会を6月18日に開催した。この作品展と発表会は、地域連携の一環として、芝浦工業大学建築学科と観光・地域交流拠点である深川東京モダン館とで、ここ数年実施している。今年度の各科目のテーマは、地域設計演習が「河川・運河と水辺を中心とするコミュニティデザイン」、建築設計演習Ⅰが「まちと暮らす小学校」、建築ゼミナール2が「豊洲6丁目「東電堀」をデザインする」であった。作品展には、学生が数名常駐し、来場者と対話して、自分たちの提案が実際の社会にどのように受け取られるかを確認した。また発表会では、15名の学生が自分たちの提案について発表し、多くの来場者から直に感想や意見を聞くことができた。来場者である市民にとっても、自分たちが暮らすまちを考え直す良い機会となり、大学と地域との交流・連携を深めることができた。



深川東京モダン館での発表会の様子。壁には、学生の作品が展示されている

■ 豊洲地区運河ルネサンス協議会との連携活動とアクション・リサーチ

江東内部河川と運河の活用を促進するための取り組みとして、市民と協働して「船カフェ」（2016年5月30日～6月5日）、「豊洲水彩まつり」（2016年9月24日）といったイベントを開催した。これらのイベントでは、学生が運河クルーズガイドなどを行っており、芝浦工業大学が立地する豊洲地区の歴史や文化、将来計画、活動といった魅力を広めようとして取り組んでいる。今年度は、他のCOCプロジェクトと連携して、ロボットによるクルーズガイドを実施し、特に子ども達から大人気であった。「豊洲水彩まつり」で行われた町内対抗ゴムボートレースでは、学生と市民との連合チームが優勝した。また運河の活用に関する3つの卒業研究と1つの大学院修士研究が取り組まれた。



豊洲水彩まつりでのゴムボートレース。市民と協働して運河活用を促進している

■ Tsukishima Walking Guidebookの開発

東京都中央区月島は、路地と長屋からなる下町の街並みを残している。また佃島地区は、江戸時代から続く街並みを残している。しかし近年は、再開発が進んでおり、マンションが急増し、新しい住民が増えている。そこでコミュニティ強化の活動として、2013年から「月島長屋学校」を開校して、住民と学生が連携して、様々な活動を行っている。最近では、海外の大学の教員・学生が多く訪れるようになったので、Tsukishima Walking Guidebookというまち歩きで使用するガイドブックを作成した。このガイドブックについては、2016年10月に開催された国際会議Walk21 Hong Kongで大学院生3名がプレゼンテーションを行い、様々な研究者と交流することもできた。



Tsukishima Walking Guidebookの作成は、学生と月島の住民との協働で進められた